



秋永 安次 議員

学校教育 部活動

支援体制は？

専門的指導者を派遣し、
支援に努める

答

部活動の学校教育における位置付けは、必ずしも確固たるものとして定着してきたとは言い難く、また、教員にとっても本務というよりは付加的に与えられた職務として受け止められやすいとともに、処遇面・バックアップ体制等も不十分であるのではと受け止める。

そこで、部活動をめぐる課題について質問する。

問 部活の担当につくと、教師の忙しさに更に拍車がかかると言われるが、現状と課題は。

答 教育部長

部活動は、教師の指導のもと、自主的・自発的な参加により行われるものであり、学習指導要領にも位置づけられている重要な教育活動であることから、市内の中学校では、全ての教師が何らかの部活動を担当しています。

部活動に多くの時間がかかることは事実ですが、生徒の自主性や連帯感等を育成するための意義あるものと考えます。

問 外部指導員の活用等を含めた支援体制は。

答 教育部長

市の部活動支援事業や県の運動部活動推進事業により、地域の専門的な指導者を学校に派遣し、部活動の支援に努めています。

問 一つの学校ではチームがつくれない場合、別の学校との合同チームをつくることはあるのか。

答 教育部長

個人種目のない団体競技において、両方もしくはどちらかのチームが規定人数を下回った場合、合同チームを編成し試合に出場することがあります。

問 活動時間について、週5日制導入以降、週1日の休養日、また放課後の上限時間を3時間程度と定められていると聞かれています。現状と実態は。

答 教育部長

市内学校の活動終了時間は、夏季が午後6時頃、冬季が午後5時頃です。休日は原則として、土日のいずれかが休みです。

問 県のスポーツ推進計画には障がいのある子どもへの運動機会の拡大が明記されているが、市の取り組みは。

答 教育部長

特別支援学級に在籍する生徒の中には運動部活動に所属する生徒も多く、交歓スポーツ大会にも参加しています。



▲子どもの健やかな成長のために 部活動への支援体制充実を

その他の質問

●安曇川駅周辺活性化検討委員会の進捗